

IV 西五反田事業部報告

1 総務部

(1) 活動報告

平成26年度は西五反田高齢者複合施設の開設11年目にあたり、事業部の年度目標である「複合機能を活かしたサービスの連携強化」を実現するため、各事業所に対して数々の支援を行いました。

ケアホーム西五反田は、待機者減少の傾向にあることから4月、5月にかけて、品川区内の各在宅支援センター宛に、にしご通信（西五反田高齢者複合施設広報誌）および入居者募集案内等の資料一式を郵送し、また定期的に待機者情報をFAXで発信しました。

6月には、ご退居されたご家族に対して「7月の夏祭り」へのご招待と、ご入居希望者の紹介依頼を兼ねた書面を約80名の方に送付しました。結果、当日は5名程度の方が夏祭りにご来館され、ご家族と職員が楽しげに団欒している光景も見受けられました。直接、入居促進には至りませんでした。ケアホームを利用して頂いた評価は高いものであったと感じました。

また、新規の入居を早期に対応できるように、退居手続き終了後から約12日間で居室の清掃・リフォームを終えるシステムを構築したこと、施設部との積極的な情報交換を心掛けたことから、居室稼働率の向上に貢献できました。

西五反田ホームヘルプステーションに関しては、年間3回の登録ヘルパー職員募集のチラシを配布しました。結果として、今年度は1名の職員採用に留まり、費用対効果の観点からは非常に厳しい状況でありました。来年度は、募集媒体や時期などを適切に判断し、登録ヘルパー職員を増員できるように努めます。

(2) コスト削減

コストの無駄を省くため、今年度は11月に主要な電球をLEDに変更しました。またその他にも電気料削減として、ご入居者・ご家族に不便のかからない範囲で照明を抑える取り組みを行いました。また、パソコンの画面電源や全館の電気を生活上に支障がない範囲でOFFにして、小さな電力も抑える意識で取り組みました。また、電力消費の大半は夏のエアコン稼働時と冬の暖房稼働時と考え、これまで24時間稼働させていたものを必要最低限の時間帯のみ稼働させる節電対策にも取り組みました。

これらの結果は次の通りでした。

	使用量		平均単価		年額料金	
	25年度	26年度	25年度	26年度	25年度	26年度
電気	741,700kwh	618,67kwh	19.91円	21.86円	14,775,000円	15,901,000円
ガス	88,600 m ³	129,215 m ³	102.50円	117.75円	17,841,000円	19,581,000円
水道	18,813 m ³	16,840 m ³	—	—	11,480,837円	10,513,000円

- ・電気 昨年と比較して、使用量は削減できましたが、料金の単価が上がったため、結果的には、使用料金の削減にはつながりませんでした。
- ・ガス 昨年と比較して、使用量、使用料金ともに削減できませんでした。
- ・水道 平成25年1月中旬から行っている「節水コマ」に変更したことの効果が出ています。

(3) 設備管理

日常の建物設備管理・点検報告の他、管理会社と定例会議を実施し、開設11年目に係る経年劣化による不具合箇所の早期発見と、中長期修繕計画についての対応協議も継続することにより充実を図りました。

このような管理会社との連携強化の効果により、平成26年度建物修繕費は当初予算額よりも約100万円削減することができました。

(4) 防災・震災対策

- 1) 防災訓練は年間4回実施しましたが、内2回の訓練は以前の訓練内容を大幅に見直して、より実践に近い訓練内容に変更し、出勤者全員参加を基本とした訓練を実施しました。
- 2) 防災の基本的知識のみならず、備蓄食糧と防災関連グッズを職員自身の目でしっかり確認し、場所と内容を把握するための勉強会を、全職員対象に約5カ月間かけて実施しました。
- 3) 複合施設としての地域防災機能の連携と強化を図るため、隣接する区民住宅、品川区大崎第一地域センター、各テナントで構成する「共同防火管理協議会」主導の地域防災会議にこれまでと同様、積極的に参加しました。
- 4) 建物自主点検も年2回実施し、消防機器類の確認、非常時避難経路の確保、備蓄食料等の補充に努めました。品川区より福祉避難所（二次避難所）として指定されていますので、災害用機材を活用した炊出し訓練も実施しました。

(5) 総務

- 1) 職員に対する法定健診および生活習慣病健診は昨年度と同様に実施し、二次検査該当者のうち要注意者に対しては産業医の面談を行い、健康意識の向上と具体的な生活改善指導を行いました。また、産業医との連携を図り、安全衛生のための職場巡回も継続して行い、職員や職場労働環境にも気を配りました。
- 2) 健康管理室と連携し、全職員を対象とした感染予防対策（講習・研修）と、うがい・手洗いの励行を周知徹底させるため、職員・ご家族に対しての啓蒙（ポスター掲示・お知らせ送付・実績管理）に努めました。
- 3) インフルエンザ対策として、例年通り11月に職員向け予防ワクチン接種を一齐に実施しましたが、年末から翌年2月下旬にかけて断続的に3回のインフルエンザ感染が確認されたため、ご家族の面会制限とマスク着用のお願いや、1日2回の手すり等の塩素消毒清掃徹底に努めました。

(6) 経理・請求

- 1) 毎月の運営連絡会等において、事業部門ごとの月次収支報告を行い、目標稼働率の再設定や、収支見込と年度見通しを予測しました。
- 2) 毎月の支出項目に関するグラフ化を充実させ、運営コストの予算・実績推移をわかりやすく提示し、経費削減に努めました。
- 3) 各事業部門との連携を密にして、国保連・利用者への請求と入金管理を徹底し、未収金が発生しないよう相互チェックに努めました。
- 4) 毎年行われるケアハウス制度上の収入認定・補助金申請手続きに関しても、施設部と連携して迅速な対応に努めました。また、さくらハイツ安心基金については老人福祉法の一部改正に伴う基金の見直しの必要から、新たな基金運営方針を東京都や品川区との協議も含めて約10カ月かけて見直し、安心基金運営委員会において報告を行いました。

(7) 地域活動

1) ボランティア活動者状況

定期活動 ケアホーム 月 平均42名 年間延べ 766名
在宅サービスセンター 月 平均40名 年間延べ 554名
イベント 年間開催件数11件 延べ57名

2) 施設活動

在宅部門 地域交流事業及び介護者教室（介護支援事業所出前講座含む）6回
ケアホーム イベント委員会補助、お誕生日会 17回
さくらハイツ 健康相談 相談件数 4回 5名
健康トーク 開催件数 6回 13名
広報誌「にしご介護通信」5月、12月の年2回発行

3) ボランティア関係

- ア ボランティア懇談会においては、活動趣旨やニーズを理解し、ボランティア活動意欲向上を目指しました。3月の開催日には、22名の方が参加されました。
- イ 7月から9月にかけて行った、ケアホーム西五反田及び在宅サービスセンターでの体験ボランティア活動には、延15名の方が参加をされました。
- ウ 地域貢献制度の推進を図った結果、対象者59名で総計1049ポイントを交付することができました。

4) 地域交流

地域との交流に関しては、例年通り『7月の夏祭り』『11月のもみじ祭り』を地域交流事業の柱と位置付け、隣接する区民住宅・都営住宅と協働して開催しました。特に『7月の夏祭り』は谷山会（町会）との恒例行事として定着し、ご入居者・ご利用者、ご家族の皆様、そして近隣の住民の方からの満足度が高くなっております。また例年通り大崎第一地域ふれあいサポート会議、在宅介護支援センター会議、ふれあいサポート交流会、区民祭り、地域センターでのボランティア研修会等に参加してボランティア活動の紹介や啓蒙に努め、社会福祉協議会主催の『ふくしまつり』には本年度もバザー参加しました。

5) 支援活動

- ア 品川ボランティアセンターへ使用済み各種カードと切手の提供。
- イ かもめ工房からの商品購入、芸術者協会からの作品購入。
- ウ エコキャップ事業への支援活動。
- エ 地域貢献制度の推進とポイント交付事業の実施。

(8) 総務関連定例会議等

- 1) 安全衛生委員会 毎月第4水曜日
- 2) 防災訓練 実施4回(5月・8月・10月・2月)
- 3) 総務会議 毎月第4水曜日
- 4) 委託業者会議 毎月第2水曜日

(9) 職員の配置状況

平成27年3月31日現在

	勤務 形態	施設 管理者	看護 師	介護 職	福祉 員	介護 支援 専門 員	理学 療法 士	管理 栄養 士	事務 職	介護 等 補助	合計
ケアホーム 西五反田	常勤	1	3	30	1	1					36
	非常勤		9	44						13	66
さくらハイツ 西五反田	常勤	1		1							2
	非常勤			1							1
総務部	常勤								5		5
	非常勤								6		6
西五反田ヘルパー ステーション	常勤	1		1							2
	非常勤			15							15
西五反田在宅 介護支援センター	常勤	1				7					8
	非常勤								1		1
西五反田在宅 サピセンター	常勤	1		7	1						9
	非常勤		2	15						4	21
合計	常勤	5	3	39	2	8	0	0	5	0	62
	非常勤	0	11	75	0	0	0	0	7	17	110

(10) 職員定期健康診断等

- 1) 深夜業従事者健康診断 5月～6月
- 2) 全職員対象健康診断 11月～1月
- 3) インフルエンザ予防接種 11月

2 ケアホーム西五反田

(1) 活動報告

平成26年度は、6つの重点目標に取り組みました。

1) ご入居者個々を理解し、生活の質向上に向けてサービス計画に基づく介護を提供する事に取り組みました。ご入居者の理解のために、新規ご入居者に対して入居者担当職員とサービス計画担当者が対象者を訪問し、その状況を基にサービス計画を立案しました。平成26年度は18名の新規ご入居者全員を対象に事前訪問し、サービス計画を立案することができました。入居されたご入居者、ご家族からは「職員に顔見知りの方がいる」ため安心できるとの評価を頂きました。

また、サービス計画のモニタリング方法の見直しを行ない、参加者が容易に情報を共有できるようにして、担当者会議の内容がより実際の状況に即したものになるように心掛けました。その結果を基にしてより適切なサービス計画の作成に繋がりました。

2) 介護技術だけでなくケアに関する基本的な心構え・配慮を身につけるべく、教育委員会を中心として介護の基本を見直し、職員にケアホーム西五反田のケアの基本研修を行ないました。またマザアス本部による総合研修にも昨年に引き続き職員を派遣し、介護・医療知識についての研修を実施しています。

勉強会や研修に関する状況は次の通りです。

ア 教育委員会によるケアの基本研修を以下の通り実施しました。

7月～8月	起床介助について	参加者	27名
8月～9月	移乗介助について	参加者	20名
9月～10月	移動介助について	参加者	18名
10月～11月	更衣介助について	参加者	24名
11月～12月	食事介助について①	参加者	21名
12月～1月	食事介助について②	参加者	18名
1月～2月	排泄介助について	参加者	10名

イ マザアス本部による総合研修に以下のように参加しました。

4月2, 3日	新入職員研修	参加者	2名
11月14日	基礎研修	参加者	2名
2月19日	基礎研修	参加者	1名

ウ 外部講師を招いての研修を以下の通り実施しました。

5月13日	誤嚥性肺炎を防ぐための口腔ケア	参加者	15名
10月1日	薬に頼らない排便コントロール	参加者	15名
10月29日	排便と薬の勉強会	参加者	9名
12月19日	口腔ケア勉強会	参加者	5名

3) 看取り介護・認知症ケア・痰の吸引等の医療行為の実施を円滑に行うために、介護と看護の協働を図りました。具体的には、介護職員、看護職員を含めた看取り介護と認知症ケアに関するプロジェクトで、毎月1回のペースで話し合いを行ないました。

認知症ケアに関してはくもんの学習療法を円滑に行うための体制作りに着手し、学習療法の啓蒙などを行ない職員間の意識を高め、12月18日にスターター研修を行ないました（参加者14名）。学習療法に取り組むことのできる職員を増員し、認知症プロジェクトで定期的に学習療法を行なう段取りを組んでいます。学習療法対象者に対し、合計で月間延べ30回程度の学習療法を実施出来るような体制にしました。また外部の認知症に特化した研修会に参加し、認知症に関する知識を獲得し、伝達形式の研修を企画する事で認知症に対する応対力の向上を図っています。

看取りケアに関しては、看取りプロジェクトを中心として改めてケアホーム西五反田の看取り介護の指針をフロア会議で話し合い、その指針を職員間の共通認識として実際の看取り介護の流れや看取り期に必要な介護技術を学ぶ勉強会を2回実施しました。

介護職員による痰の吸引等の医療行為実施に向けて、平成26年度は1名が登録を済ませました。

4) 経営安定のため、年間稼働率96%の維持を目指し、退居から入居までの期間を14日以内、入院から退院までの期間を20日以内にする目標を掲げ取り組みました。結果として、平成26年度の年間稼働率の実績は、96.3%と目標を上回りました。昨年との比較は次の通りで、受け入れ・退院までの日数は共に、若干長くなってしまいました。

ア 新規入居受け入れに要する期間

平成25年度 19.0日 (総空室日数 418日)

平成26年度 24.0日 (総空室日数 505日)

イ 入院から退院までに要する期間

平成25年度 入院者数 22名 平均入院期間 19.3日

平成26年度 入院者数 21名 平均入院期間 22.1日

5) フロアの運営方針を明確化し、リーダーがリーダーシップを取り、他職種を交えたチームケアで取り組みました。

各フロアの運営方針と達成成果については下記の通りです。

【2階フロア】

「ご入居者を第一に考え、行動に移す事が出来る職員作り」

「職員同士で話し合い、問題解決できる職員作り」

以上の2点を運営目標に掲げ、取り組みました。

①フロア会議での検討事項の捉え方を変更して、事前にリーダーから検討事項を伝える事で会議参加者が積極的に話し合いに参加し、職員全員で課題の解決を図りました。

②誕生会、園芸活動、個別リハビリなどの活動に関しては、職員それぞれに主体を持たせた事で、職員一人ひとりが自主性を持って関わる事が出来ました。

【3階フロア】

「ご入居者が充実感と安心感を持ち生活できるフロア」

「ご入居者主体で考え、行動できる職員の育成」

以上の2点の運営目標で一年間取り組みました。

- ①園芸活動や演奏会といった昨年来の活動は、担当者を決めて定期的に行なう事が出来ました。新たな全体イベントとして始めた歌声喫茶や外周散歩などはマニュアル化して、ご入居者の継続的な楽しみに繋げています。
- ②職員が自分自身のケア業務を振り返る機会を作り話し合う事で、アザが出来やすい方への対応や、身体レベルが重度化傾向にあるご入居者への対応に関して、見直しの必要性の議論や情報共有を積極的に行いました。

【4階フロア】

「ご入居者が安心して日々の生活を楽しめるフロア作り」
を運営目標に掲げ、取り組みました。

- ①目標の達成に向け、介護職員ごとの提供できるケアの水準を引き上げ、様々な状況にも適切に対応できる技術を身に付けるために、勤務状況を考慮してユニット研修の機会を増やしました。
- ②日常業務の見直しを行ないました。衛生管理などで必要な業務に関し、時間帯や職員配置を検討する事で、ご入居者の対応に支障をきたす事のないようにしています。
- ③ユニットごとの活動を充実させました。お茶会などでご入居者同士が触れ合う機会を増やす事で、ご入居者が職員を介さずとも率先して談笑し合う姿が見られるようになり、ご入居者の新たな面を引き出す事も出来ました。

6) 感染症対策として、感染対策委員会によるミニ勉強会を昨年に引き続き実施しています。また新人職員に対しては嘔吐処理研修を行ない、正しい対応ができるようにしました。さらに入社時の社内オリエンテーションに於いても、感染症についてのオリエンテーションブックを用意して説明することで、感染症への意識を高めています。

防災関連の取組みとしては、避難所としての定期的な防災備蓄品の見直しや補充を行ないました。また避難訓練も例年通り以下の日程で実施しておりますが、新入職員には入社時オリエンテーションの中でも防災設備や避難経路については丁寧な説明を心掛け、非常事態の際には職員全員が迷わず動けるよう教育しました。

【感染予防勉強会実績】

5月	カビについて	参加者	46名
6月～7月	食中毒について	参加者	56名
8月	感染性角結膜炎について	参加者	17名

【防災訓練実績】

8月	夜間想定避難訓練
9月	共同防災訓練
10月	地震想定防災訓練
11月	炊き出し訓練
2月	総合防災訓練

(2) 入退去状況

平成26年度 入退去状況 定員81名

(単位：名)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入居	病院	1				2			2		1	1	1	8
	老健							1	1					2
	他施設										1			1
	移り住み													0
	在宅		2	2	1	1		1						7
	計	1	2	2	1	3	0	2	3	0	2	1	1	18
退去	療養型		1											1
	在宅													0
	施設外退去	1	1						1				1	4
	施設内退去			3	1	1	2	1	1	2	1	1		13
	他施設													
	計	1	2	3	1	1	2	1	2	2	1	1	1	18
月初	80	80	80	79	79	81	79	80	81	79	80	80		
月末	80	80	80	79	81	79	80	81	80	80	80	80		

※施設内での看取りについては、医師からの状態説明の後、話し合いを重ね、ご家族の意向を受け対処しているものです。

※平成27年度も引き続き、稼働率の安定稼働を目指し、空室期間の減少、入院者の早期退院と受け入れ努力、並びに長期入院時の契約一時停止の履行について、更に注視しながら運営を行ってまいります。

(3) 平成26年度介護度別入居者割合

(単位：%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護1	1000	1000	875	886	1111	1111	1125	1235	1235	1266	1375	1250
要介護2	1875	1750	2000	1899	1605	1605	1750	1728	1728	1772	1750	1750
要介護3	3125	3250	3250	3418	2963	2963	2875	2963	2963	2911	2750	2750
要介護4	1750	2000	2000	1772	2346	2346	2000	2099	2099	2152	2250	2500
要介護5	2250	2000	1875	2025	1975	1975	2250	1975	1975	1899	1875	1750
平均介護度	324	323	320	322	325	325	325	319	319	317	315	318

※要介護1～要介護2 : 要介護3～要介護5
(29.0%) : (71.0%)

(4) 健康管理室

例年集計している健康管理室からの情報で、平成25年度と比較して明らかに数値が変化した項目は吸引器の稼働台数でした。倍増しておりますがその理由としては、嚥下機能の低下に伴い胃瘻や経鼻栄養に変更せざるを得ない状況の方に対しても、「最後までお口から食事を摂ってもらいたい」と望まれるご家族が増えた事が考えられます。このような経口摂取の場合は、食事形態の工夫は勿論ですが食事前後にそれぞれケアが行なわれ、それらの場面で吸引器が必要となります。また、体調によって随時吸引器を必要とされる方もいらっしゃるため、このような件数になったと考えます。

点滴の件数は昨年と大きく変わる事はありませんでした。看取りの時期が訪れ、点滴を希望されないご家族、終末期まで点滴を希望されるご家族、両者のケースはほぼ同じ件数でした。これは看取りに対する思いや考えは、ご本人の尊厳を重視する考え方が広まってきているからではないかと思われまます。

ケアホームでご逝去された方は、17人中12人で昨年と同人数でした。そのうち2名の方は、入所される時点で看取りの時期となっていた方で、入居期間は短期間でしたが終末期までケアホームでお過ごしになられています。今後も終末期を病院ではなく、ケアホームに入居して過ごす事を望まれる方が増えて来るのではないかと思われまます。

点滴件数（月内延べ件数）

H26年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
人数	24	54	20	1	8	19	12	9	39	8	3	20	217

経管栄養施行対象人数（月内一日の平均人数）

H26年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
人数	5.5	5.8	6.3	7	6.4	5.8	5.6	5	6.4	6.1	6	6	6

吸引器 月稼働台数

H26年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
台数	50	65	47	37	20	69	38	29	52	11	13	16	37

救急搬送件数

H26年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	合計
救急搬送	日中	10	3	0	0	0	0	3	0	1	2	2	0	14	18
	夜間	1	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	4	

死亡退去

H26 年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	合計
死亡退去	ホーム	0	1	2	1	0	2	1	1	2	1	1	0	12	17
	ホーム以外	1	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	5	

(5) 栄養

1) 給食管理面

ア 季節食・行事食・イベント食の提供を通じ食事による季節感を味わって頂きました。

季節食・行事食

(加算無し)

毎月：1回(1日)松花堂弁当

5月：筍ご飯・かしわ餅(端午の節句)

7月：七夕そうめん・おやつ(七夕)、アイス(海の日)
うな玉丼(土用の丑の日)

8月：芋ご飯・すいとん(終戦記念日)

9月：お月見うどん(十五夜)、おはぎ(秋分の日)

10月：おいなりさん(体育の日)

12月：クリスマス食(クリスマス)、南瓜煮(冬至)
年越し蕎麦(大晦日)

1月：おせち(元旦)、七草粥(人日の節句)
ぜんざい(鏡開き)

2月：ちらし寿司・甘納豆(節分)

ショコラロールケーキ(バレンタイン)

3月：ちらし寿司・おやつ(雛祭り)、ぼたもち(春分の日)

イベント食

(加算あり)

年間：さくら寿司(2回/年)

9月：敬老お祝い膳・紅白饅頭(敬老の日)

12月：クリスマスディナー・クリスマスケーキ(クリスマス)

1月：お正月料理(お正月)

イ 平成26年度の団らん食(食事の手作り)は職員配置の都合により、実施出来ませんでした。

ウ 食を通じて、入居者同士のコミュニケーションが目的の、楽しみの為のクッキング(茶話会)を実施しました。(手作りおやつ、食事と茶話会)

さくらハイツ：みたらし団子、新緑の行楽弁当、お焼き、抹茶白玉かき氷、たこ焼き、クリスマスケーキ、いちご大福

2) 栄養管理面

ア 入居者の体格指数（BMI）の状況は以下の通りです。（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
18.4未満	21	28	27	25	27	27	25	26	28	26	24	25
18.4～ 25未満	52	48	48	50	51	52	52	48	50	50	50	52
25以上	2	2	3	2	2	2	2	3	3	3	3	3
その他 未測定	6	3	3	4	1	0	2	4	0	2	4	1

【※18.4未満：やせ 18.4～25未満：正常 25以上：肥満】

イ 食事と栄養の傾向

業務委託先をイフスコヘルスケアに変更し、2年目を迎えました。調理に関して不明な点には、その都度改善の為の話し合いの場を設けておりますが、今年度は献立作成者も変更するなどして良質な食事提供のための努力が窺えました。また、ケアホーム西五反田運営総懇談会などでご指摘を頂いた「食材」についてのご意見を受けて、仕入れ食材や仕入れ業者の変更も行われました。このような取り組みで、現在ご入居者からは一定の評価を頂いております。

今年度は職員配置の関係でケアホームの「団らん食」が実施できませんでした。9月より介護食の一つであるソフト食の導入を、昼食と夕食で開始することとなりましたので、これまで「団らん食」を召し上がれなかった方には、食の楽しみを少しでも味わって頂けたのではないのでしょうか。ソフト食は今後、見栄えなどにも工夫を凝らして充実させていきます。

さくらハイツでは選択食を月2回実施するなどして、ご入居者のニーズにあわせた食の提供を心掛けていましたが、炊飯器の故障により一時期ご迷惑をお掛けしました。新たに炊飯器を購入し、これまで炊き上げていた場所をさくらハイツのパントリーに変更して、より暖かく美味しいご飯の提供に努めました。

平成26年度は献立作成者の変更や仕入れ食材の変更に加え、新たに導入した介護食の一つである「ソフト食」などが安定してきていますが、引き続き工夫と改善を試みながら喜ばれる食事の提案をしていきたいと考えています。

3 さくらハイツ西五反田

(1) 活動報告

前年度末のご退去以降、今年度は移り住みも含めた退去件数が大変多く、年間ベースで開設以降、最多でした。また、初めて二人部屋から一人部屋への移動もありました。

前年度の平成 26 年 3 月末までのご登録者の方には、新年度に早期入居して頂くことができましたが、その後も退去が続き、新規入居登録者にその都度、入居の意向を確認するものの、入居の時期に関しての条件や調整に時間を費やししながら手続きを進めなければならないケースが多い年度でした。

尚、さくらハイツとして初めての二人部屋から一人の居室への移動後の二人部屋に関しては、新規の方の契約を今年度末までに済ませ、新年度からご入居して頂くこととなりました。

運営面では年間通して契約終了が続いたことや、その際の空室に経年化による予想外の修繕費用が掛かり、収支面では目標を達成することはできませんでした。

開設より 11 年が経過し、今年度は入退去が続きましたので、さくらハイツは半数近い居室が新たなご入居者を迎えたこととなります。また、介護保険を申請されていた方のご退去が続きましたので、介護保険申請者の人数は現在、ご入居者の 4 分の 1 に減りました。しかし予防よりも介護の方が増えている傾向にあり、介護サービスの利用件数は増加している状況です。長期入院になった方や、或いは入院により状況が変わった方も多くなり、生活面の支援が必要なご入居者が増えています。

このように今年度は、新たなご入居者に対する新たな生活に向けた支援が必要であったことや、これまでのご入居者の個々の心身状況変化に対する個別支援を必要とする方が増えたことを踏まえ、さくらハイツ入居者の生活支援に努めました。

また、平成 26 年度は、次の通り 5 つの重点目標に取り組みました。

1) 入居者の状況把握と支援プランの作成

個々の心身状況と生活状況を踏まえ、介護サービスのご利用者で変化があった方を中心に個別支援プラン作成しました。また、介護保険を受けられている方を中心に、適時個々にお話を伺いました。ご質問やご意見のお申し出のあった際も、その都度個別に面談を実施しました。

今年度も生活面や判断力・理解力に心配のある方や、急激な心身状況の変化により生活の見直しが必要な方々については、今後ハイツでの生活を維持するためにはどのような支援が必要か、安全且つ安定した生活の為にはどのような方法が望ましいのか、についてご家族との面談を実施しました。

また、適宜、職員間の情報交換、情報共有のためのミーティングの機会を設けました。

2) 安心基金について

今年度は、老人福祉法の一部改正に伴い『介護の安心基金』について制度の見直しが必要となりました。平成 27 年度からの新規入居者が『介護の安心基金』には加入ができなくなったことや基金制度の今後の運営の方向性を、平成 24 年度から平成 26 年度までの加入者に関しては個別説明会を開催し、平成 23 年度までの加入者には介護の安心基金運営委員会の議事録を通じて周知するだけでなく、個別の事案にも対応しました。

3) 介護予防の取り組みについて

本年度も引き続き「ハイツ独自の介護予防」を目指し、“さくらハイツいきいきクラブ”を①「健康体操」②「散策」③「脳トレ」を三本柱として継続して実施しました。

また、外出が困難になってきた方も施設内で楽しめるよう、趣味活動の提供として毎月1回開催する映画鑑賞会や「季節の茶話会」を定期的で開催して、ご入居者同士だけではなく職員との交流や、季節の雰囲気を楽しむ機会を持ちました。

健康面では健康相談として、ご入居者からの健康への不安に対して、アドバイスをする機会を設けたことから、心身機能の変化を把握することが出来ました。場合によっては医療機関への受診をお勧めすることや、介護サービス利用の情報を提供することができたことで、新たな支援にも繋がりました。また、テーマを基に気軽に少人数で話す「健康トーク」の機会も継続して実施しました。個々には話しぶりの方も、少人数で気軽に参加できる交流の機会を持てるようにしました。

また、納涼会、忘年会を通じて在宅部門やケアホーム職員とも交流の機会を持ちました。

4) 介護サービス等の支援を必要とするご入居者に対して

介護サービスを必要とされる方に対して、さくらハイツでの生活継続支援のためにも、円滑な在宅サービス導入に繋がるように、適切な時期に介護保険認定申請の援助やサービス提供部門との連携・調整を図りました。対症療法的な対応で完結させるのではなく、継続的で適切なサービスに繋がるように、訪問介護スタッフの早期の関わりや、必要な介護サービスの導入をお勧めしました。また、併設事業所のケアマネジャーとの連携を強化して情報共有を図り、状況が変わった方のサービスに合わせ、適宜施設支援プランの作成や見直しを行いました。さらに関連部門との連携を深めて情報共有を容易にし、カンファレンスや担当者会議にも積極的に出席しました。

5) 施設の安定稼働について

今年度は、ほぼ年間を通して入居退去が続き、常に気忙しい状況でした。年度早々から入居登録者に意向を確認しながら手続きを進めました。中には、予想外に早い連絡でキャンセルをされる方もあり、登録者名簿の順番も進んだことから登録者に対して、改めて現況調査を実施しました。その結果、現登録者はほぼ全員の方が“即時入居”を希望することが確認できました。

尚、今年度は退去から入居までの空室期間が長くなり、稼働状況が下がりましたが、入居を決定して下さった方は、ほぼ全員の方が早期に手続きを進めて下さり、比較的早期に入居して頂くことができました。

6) その他

ア 職員研修の実施

内部研修を中心に、感染予防、リスクマネジメント勉強会等の職員研修に参加しました。

イ 運営管理

①防災訓練

防災対策委員会の協力の下、災害に備えた防災訓練を他部門と連携して実施しました。例年通りの防災訓練に加え、他部門の職員もさくらハイツの避難誘導ができるよ

うに、さくらハイツの避難経路見学会を、事務所の職員などを対象に実施するだけでなく、さくらハイツ職員は西五反田複合施設の他部門の防災訓練にも参加しました。

②感染対策

感染対策委員会に毎月参加して感染症に関する情報の共有と予防に努めると共に、流行時期にはご入居者に対して感染症予防の情報発信と、感染拡大防止に努め、罹患者の対応も適宜行いました。感染予防の啓蒙を目的とした、手洗い講習会をご入居者対象に年2回開催しました。

③設備点検

年1回の職員による緊急設備点検を予定通り実施し、ご入居者と一緒に確認をしました。

ウ 食の楽しみの強化

通常のメニュー食の他にも、有料により選択ができる「選択加算食」を月1~2回実施し、イベント食・行事食と合わせて月2回以上実施しました。

エ 移り住みの支援

移り住みを希望されたご入居者が適切な時期に速やかに移り住みができるように、ご家族と密に連絡を取り合い、また面談を重ね、速やかにケアプラン会議を開催して、手続きを実施しました。

オ 新規入居の受け入れ

新規のご入居者をスムーズに迎えられるように、早い段階から面談の機会を設定し、施設の入居時には、不安が解消できるように説明を行いました。

カ ご入居者への現状報告

施設内での出来事・入退去情報などの現状報告と、さくらハイツでの生活を継続する上での注意に関する依頼などには、常に他のご入居者のプライバシーに充分配慮して、行うことを心掛けました。

(2) 入居の状況 (3月1日現在)

(単位：人数)

		一人部屋 (35室)	二人部屋 (4室)	合計
定員		35	8	43
入居者	男性	2	3	5
	女性	33	3	36
	合計	35	6	41

(3) 入居者の年齢構成 (3月1日現在)

(単位：人数)

	60~69歳	70~74歳	75~79歳	80~84歳	85~90歳	90歳~	合計	比率 (%)
男	1	0	0	4	0	0	5	12.2
女	1	6	5	16	4	4	36	87.8
合計	2	6	5	20	4	4	41	100

平均年齢 男 79.2歳 女 81.2歳 全体 81.0歳

(4) 会議・行事等

	会 議 等	イベント・行事関係等	いきいきクラブ
4月		<ul style="list-style-type: none"> ・身体測定 ・お茶会 ・緊急設備点検 ・健康トーク ・クッキング ・映写会 	<ul style="list-style-type: none"> ・お花見散歩 ・健康体操 3日、10日 ・脳トレ
5月	運営懇談会	<ul style="list-style-type: none"> ・端午の茶話会 ・お茶会 ・映写会 ・防災訓練 ・クッキングハイキング 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康体操 8日、15日、22日、 29日 ・脳トレ
6月		<ul style="list-style-type: none"> ・消防設備点検 ・お茶会 ・手洗い講習会 ・健康トーク ・クッキング ・映写会 ・健康相談 	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩（小石川後樂園） ・健康体操 5日、12日、26日 ・脳トレ
7月	安心基金運営委員会 総懇談会	<ul style="list-style-type: none"> ・夏祭り ・お茶会 ・七夕茶話会 ・映写会 ・健康トーク ・脱水予防勉強会 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康体操 3日、10日、24日 ・脳トレ
8月		<ul style="list-style-type: none"> ・お茶会 ・健康相談 ・健康トーク ・クッキング ・映写会 ・納涼会 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康体操 7日、21日、28日 ・脳トレ
9月	運営懇談会	<ul style="list-style-type: none"> ・茶話会 ・お茶会 ・敬老祝賀会 ・映写会 ・共同防災訓練 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康体操 4日、11日、25日 ・脳トレ
10月		<ul style="list-style-type: none"> ・お茶会 ・エレベーター点検 ・健康トーク ・手洗い講習 	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩（品川歴史館） ・健康体操 2日、16日、23日

		<ul style="list-style-type: none"> ・映写会 ・クッキング 	<ul style="list-style-type: none"> ・脳トレ
11月	運営懇談会	<ul style="list-style-type: none"> ・身体測定 ・お茶会 ・映写会 	<ul style="list-style-type: none"> ・散策（六義園） ・健康体操 6日、13日、27日 ・脳トレ
12月		<ul style="list-style-type: none"> ・排水口・溝清掃 ・お茶会 ・消防設備点検 ・忘年会 ・健康トーク ・クリスマス会 ・クッキング ・映写会 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康体操 4日、11日、18日 ・脳トレ
1月	運営懇談会	<ul style="list-style-type: none"> ・賀詞交換会 ・お茶会 ・お汁粉茶話会 ・映写会 	<ul style="list-style-type: none"> ・散策（七福神巡り） ・健康体操 15日、22日、29日 ・脳トレ
2月	安心基金運営委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・お茶会 ・クッキング 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康体操 5日、12日、26日 ・脳トレ
3月	運営懇談会	<ul style="list-style-type: none"> ・雛祭り茶話会 ・停電試験 ・お茶会 ・クッキング ・映写会 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康体操 5日、12日、26日 ・脳トレ

(5) 入居者の介護状況（3月1日現在）

（単位：人数）

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4
男性	0	0	0	1	0	0
女性	3	0	2	1	3	2
合計	3	0	2	2	2	2

平均介護度 全体 1.92

(6) 入居者の介護サービス利用状況（3月1日現在）

訪問介護	8名
通所介護	3名
福祉用具	8名
訪問マッサージ	1名
訪問リハビリ	2名

(7) 給食管理

【選択加算食実施報告】

H26 年度『加算食一覧表』	
4月	海鮮ちらし・筍御飯と鮭塩麴焼き
5月	さくら寿司・エビフライ
6月	うな丼・ビーフカレー
7月	あじの干物・(懇親会メニュー)
8月	うな丼・とんかつ
9月	冷し中華・(敬老祝い膳)
10月	さんま塩焼き・天ぷら
11月	さんま塩焼き・さくら寿司
12月	ロースカツ・(クリスマス食)
1月	(正月メニュー)・お刺身
2月	エビフライ・五目あんかけ焼きそば
3月	お刺身・ロールキャベツ

4 西五反田在宅サービスセンター

(1) 活動報告

1) デイサービス事業

今年度は、複合施設の機能を生かしたサービスの連携強化に向けて、施設内事業所間での情報共有を円滑に行い、業務管理体制の更なる整備に努める事で、稼働率の確保を目指す運営を心掛けました。

認知症ケアに関しては、職員全体に対して「認知症の方に対して私たちが行えること。」というテーマで考えた時、「その人らしい生活を送っていただくためのサービスとはどういうものか」や、同時に事業所として行う認知症ケアの方向性に関して議論できる機会として個別面談の場を設け、知恵を出し合いました。しかし認知症対応型のご利用者の獲得に関しては、昨年度と同様に稼働率は伸び悩みましたので、次年度に向けての認知症ケアプロジェクトを立ち上げる事で、ご利用者に対してだけでなく、ご家族、ケアマネジャーや、地域に対して積極的にアピールする等、稼働率向上を優先的に考えていく所存です。

また、地域に対しては地域住民のボランティアの充実に努め、ボランティア懇談会を通して、日頃より協力いただいているボランティアの方と職員との交流の場を作りました。例年行っている地域交流事業は、高齢者複合施設全体でイベントを企画し、地域住民参加型の行事を開催しました。地域の学校関連との繋がりも深まりましたが、今後も地域交流の機会を増やしていきたいと考えています。

2) 平成26年度の重点目標について

ア 今年度は、昨年度まで行っていた「くもんの学習療法」を一旦中止しました。デイサービス全体の取り組みとし、生活相談員とリーダーを中心に「脳トレプロジェクト」を立ち上げました。プロジェクターを使うことで、スクリーンに映しだされた漢字クイズ・計算問題・回想映像や音楽を、ご利用者に観て頂き、声に出して回答したり歌って頂くような、全体参加型のアクティビティに変更しました。

イ リハビリテーションについては、昨年度より機能訓練指導員の指導の下、要介護状態、要支援状態の方に関して、集団での機能訓練指導や個別機能訓練指導を機能訓練計画に基づいて実施してきました。計画から実施・モニタリング・評価まで行った結果を、家族やケアマネジャーに報告しています。今後も、利用者の参加意欲を高めると同時に、在宅での生活意欲の向上に繋がるよう努力していきます。

【機能訓練実施実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(平均)
要介護証 人数	396	398	388	425	316	364	381	322	374	268	292	368	4,292人
要支援証 人数	112	116	103	116	83	102	98	95	101	84	78	94	1,192人
介護・歩比 率%	87・13	86・14	86・14	87・13	86・13	87・13	88・12	85・15	85・15	84・16	87・13	86・14	86% (㊦) 14% (㊧)

ウ 介護予防事業については品川区の委託事業として『マシンでトレーニング・予防ミニデイ』を半年1クールとして、上期・下期と実施してきました。とくに、マシンでトレーニングでは、午前・午後の講座とも実施期間後の修了式で、利用者の成果データを表にした修了書をお渡ししています。参加者の意見として「ここまで頑張れると思わなかった。」「行き届いた指導と周りのスタッフの気遣いに、このまま続けたい。」「ここで出会った、みなさんとこれからも会いたい。」という声を多数聞く事が出来き、この事業の成果は確実に残す事が出来たと考えています。

(2) ご利用者の状況について

10月に行われた品川区の実地指導検査において指摘を受けた定員については、品川区の意向に沿って事業運営を行いました。

【通常対応型】 + 【介護予防】

定員30名/日

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼働日数	26	27	25	27	26	26	27	25	26	24	24	26	309日
延回数	711	732	667	741	678	688	718	639	666	584	563	645	8032人
稼働率	912	904	889	915	869	882	886	852	845	81.1	782	827	865%

【認知症対応型】

定員12名/日

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼働日数	26	27	25	27	26	26	27	25	26	24	24	26	309日
延回数	175	174	152	148	163	164	178	155	163	149	136	133	1890人
稼働率	56.1	53.7	50.7	45.7	52.2	52.6	54.9	51.7	52.2	51.7	47.2	42.6	50.9%

【全体の稼働率】

定員42名/日

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼働率	81.1	79.9	78.0	78.4	77.0	78.0	79.0	75.6	75.9	72.7	63.9	71.2	74.1%

(3) 防災計画

事業所全体としての取り組みでは、職員全員が熟知していることで、利用者を安全に避難誘導できるように施設全体の避難経路の確認を行いました。また、事業所内での避難訓練は施設内で火災が発生した時を想定して、例年と同様に実施しました。さらに今回は、東京消防庁の協力を得て、救護演習では担架の使用方法、負傷者の安全な移送方法等、実技演習も行いました。

(4) 研修計画および行事

1) 内部研修

今年度は、脳トレプロジェクト検討会を毎月実施することで、スクリーンを使っのアクティビティサービスを充実する事が出来ました。引き続き、検討会は行っています。

内部研修	
毎月	脳トレプロジェクト検討会、デイサービスご利用者ケースカンファレンス リハビリ会議
4月	自転車マナー講習会
5～2月	「リスクマネジメントセミナー」年4回
9～3月	「感染対策について」(吐物処理の実践研修)

2) 外部研修

東京都主催の研修に参加しています。

外部研修		人数
8月	介護サービス事業者支援研修会	1名
1月	生活相談員研修会	1名
2月	地域介護セミナー、指定更新事業者研修会	各1名

3) 実習受入れ

6～7月 昭和大学医学部附属看護専門学校「老年看護学実習」

8月 青少年体験学習

4) 行事

月	行事名	対象者
4月	花見会	デイ利用者
6月	スポーツ大会	デイ利用者
7月	地域開放事業「夏祭り」	デイ利用者 複合施設利用者
8月	デイサービス夏祭り	デイ利用者
9月	敬老会	デイ利用者
12月	クリスマス会	デイ利用者
1月	外出プログラム	デイ利用者
2月	節分	デイ利用者

・月間行事

デイ利用者対象にカード贈呈など、誕生日会を毎月、行いました。

・介護者教室

7月 高齢者の脱水対策 10月 高齢者の美容と健康について

5 西五反田在宅介護支援センター

(1) 活動報告

平成 26 年度の居宅件数は当初目標としていた年間 3990 件の 104.4%増（前年度比 110.9%）となり、収入目標も達成することができました。

要因としては、①昨年度迎えたケアマネジャー 2 名が独り立ちして、標準担当件数を受け持つことができた。②地域の高齢者相談窓口として積極的に地域住民の方々の相談に関わることを心掛け、また医療機関の連携窓口と密に繋がることで利用者と早い段階から関わることができたことで、ご利用者が安心して在宅に戻るプランを示すことができた。③介護状態になる以前の予防の段階より関わり、信頼関係を作ることで本人の状態を適切に把握することができた。以上の 3 点があげることができると考えます。

今後も品川区が示しているケアマネジャー 1 人あたりの標準担当件数を遵守しつつ、在宅介護支援センターとしての相談窓口業務や、キャラバンメイトの認知症サポーター事業の開催・認知症の早期発見等の活動を積極的に行い、地域の方々が安心して在宅生活を送れる地域支援に向けて努力します。

居宅事業所としては地域の方々より選んでいただけるように、質の高いケアプランを提供するため、各種研修にも積極的に参加しました。特に認知症サポーター事業開催に当たり認知症や精神科疾患等の研修に参加し、二人の新人ケアマネジャーも更新研修に加えてキャラバンメイト研修を組み入れ、地域の課題となっている認知症高齢者の支援にも力を入れました。ケアマネジャー業務の充実を視野に入れた勉強会・検討会などを積極的に行いました。現在、多くのご利用者は病院の在院日数の短縮化やターミナル推進等で、地域で生活する利用者の医療依存度はここ数年高い伸びを示しています。相談に来所する高齢者や民生委員・地域の方々の相談は、虐待や経済的貧困、家族問題と多くの複雑な問題を含んでいます。これらの相談を、本人、家族、品川区の担当ワーカーや保健センター職員、医療機関、各サービス事業者、そして地域の方々とは丁寧にかかわり、連携することで問題解決に取り組みました。これまで西五反田在宅介護支援センターは居宅介護支援事業所として法令遵守に則った適切な運営を心掛けて、適切な介護サービスの実施に繋がっています。しかし平成 27 年度の介護保険改正で、予防給付が品川区の総合事業に移行するため、これまでは予防担当を 2 名で対応してきましたが、今後は予防給付利用者の居宅件数に合わせた適切な人員配置を行い、地域の支援を手厚く行っていく必要があると考えます。

また、西五反田在宅介護支援センターが地域の方に気軽に利用できるように、地域で行われる行事やふれあいサポート会議、ボランティア活動等に積極的に参加しました。介護保険などの利用のない高齢者の方々にも、地域の老人クラブなどで介護保険の勉強会などを開催し地域の相談窓口として気軽に相談が行なえるように努めました。

(2) ご利用者の状況

(単位：件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10	11	12	1月	2月	3月	計
認定調査件数		51	36	49	45	54	39	33	39	35	33	49	53	516
相談件数		1,006	1,017	968	1,094	1,172	1,061	1,132	1,143	1,059	986	1,088	984	12,710
居宅外相談件数														197
(内訳)	窓口	2	3	11	8	6	4	7	4	3	4	15	5	72
	電話	8	6	8	8	6	2	4	7	3	5	6	6	69
	訪問	4	12	4	4	11	2	4	5	4	2	3	1	56
ケアプラン数														4,173
(内訳)	介護給付	185	193	194	193	201	203	209	199	199	198	199	203	2,376
	予防給付	152	147	150	150	148	147	150	151	148	152	150	152	1,797
ケアサイト作成数														403
(内訳)	介護給付	15	20	16	13	15	13	11	12	12	16	19	19	181
	予防給付	21	23	17	19	16	22	17	15	13	12	25	19	219
	予防事業	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	3

(3) 実習受け入れ状況 (8名・今年度より実習日数が2日に増える)

1) 昭和大学医学部附属看護専門学校(8名)

6月17日・18日 9月16日・17日 10月1日・2日 10月15日・16日

2) 東京医療保健大学(8名・今年度より実習日数が2日に増える)

6月9日・10日 7月8日・9日、11月19日・20日 12月8日・9日

(4) 研修状況

4月	平成26年度認定調査員新規研修	東京都福祉保健局	2名
	健康福祉事業部 新人介護支援専門員研修	品川区高齢者福祉課	1名
5月	東京都介護支援専門員更新研修	東京都福祉保健局	1名
	ケアサポート研修	品川区高齢者福祉課	1名
6月	認知症アセスメント(DASK)研修	東京都	4名
	認知症ケア専門コース	品川福祉カレッジ	1名
	精神疾患の薬物療法	東京都立中部総合精神保健福祉センター	2名
	精神疾患の理解と対応	同上	1名
	地域支援の関連法と地域移行の支援	同上	1名
7月	支援者のためのメンタルヘルス	同上	2名
	タッピングタッチを学ぶ	同上	1名
	医療と司法のはざまにいる精神障害者の支援	同上	1名

8月	高齢者の精神疾患	同上	4名
	ケアマネジメントの質の向上研修	東京都	2名
9月	認知症の検査について	品川医師会 エーザイ	2名
	医療と福祉の連携の為の意見交換会	品川区高齢者福祉課 品川医師会・エーザイ	4名
	高齢者の日常生活支援事業	品川ケア協議会	2名
	ALSの基礎知識（在宅ケアを中心に）	荏原保健センター	1名
10月	気分障害を学ぶ	東京都立中部総合精神保健福祉センター	2名
	統合失調症と理解と支援	同上	1名
	品川区キャラバンメイト養成研修	品川区	2名
11月～2月	介護支援専門員実務従事者基礎研修	東京都介護支援専門員研究協議会	1名
11月	口腔機能向上・ケア講座	品川福祉カレッジ	1名
	支援者のための関連法の理解	東京都立中部総合精神保健福祉センター	1名
	現任ケアマネ研修 ケアマネジメントに不可欠な記録	品川区高齢者福祉課	1名
	癌のリハビリテーション	東京都医療保険公社 荏原病院	1名
	在宅での見取りを考える	東京都医師会	1名
12月～2月	東京都介護支援専門員 専門研修過程Ⅱ 計3回	東京都介護支援専門員研究協議会	1名
	引きこもりの理解と支援	東京都立中部総合精神保健福祉センター	1名
	レビー小体型認知症の方の施設における生活 西五反田ケアホーム	品川区高齢者福祉課 品川医師会・エーザイ	8名
1月	パーソナリティー障害からの回復と支援	東京都立中部総合精神保健福祉センター	2名
	転倒による骨折・骨粗鬆症	厚生中央病院	1名
	地域におけるリハビリテーション	厚生中央病院	1名
2月	「ケースレポート」について考える	東京都立中部総合精神保健福祉センター	1名
	居宅介護支援指定更新研修	東京都福祉保健局財団	1名
	高齢者虐待	品川区	1名
	「認知症と生きる私が伝えたいこと」	品川医師会・エーザイ	2名
3月	介護予防とリハビリテーション	品川区	1名

(5) 内部研修（勉強会）

スタッフが分担して幅広く、各分野での研修に参加し、支援センター内の勉強会で発表することでスタッフ全員の周知とスキルアップを図りました。

4月	勉強会のテーマを選定・ケアマネ業務の確認・担当者決め
5月	認定調査 適切な特記事項の書き方
6月	業務マニュアルの確認と変更事項の更新Ⅰ
7月	業務マニュアルの確認と変更事項の更新Ⅱ
8月	防災時の対応とスタッフの役割
9月	介護支援事業者研修を参加しての事務所内研修
10月	H27 年度介護保険改正の方向性とケアマネジメントについて
11月	在宅での見取り
12月	レビー小体認知症について
1月	災害時要援護者の支援について
2月	高齢者の栄養管理・リスクマネジメント研修
3月	品川区の総合事業開始に基づく支援の方向性

(6) 地域交流会

4月	さくら祭り
	認知症サポーター養成出前講座（城南信用金庫・本店）
4月～3月	ふれあいサポート活動会議への参加（年4回）
5月	民生委員と在宅介護支援センター職員との懇談会
6月	二次予防事業対象者把握事業 「地域の高齢者対象に体力測定」
	キャラバンメイト認知症サポーター養成出前講座 （職業能力開発センター・マンション管理人コース）
7月	夏祭り
9月	地域総合防災訓練への参加
10月	キャラバンメイト認知症サポート養成事業出前講座開催（日興証券）
	品川区介護者激励のつどい
11月	もみじ祭り
	キャラバンメイト 認知症サポート養成事業出前講座開催 （日本光電東京株式会社 南支店）

6 西五反田ホームヘルパーステーション

(1) 活動報告

訪問介護サービスを利用いただいているご本人、ご家族が、在宅においてその人らしい自立した生活ができるよう、それぞれの有する能力に応じた、心身両面の支援となるよう援助を行いました。

今年度は「複合機能を活かしたサービス連携の強化」を目標に、施設部門・在宅3部門の連携を強化しながら、ご利用者個々の支援根拠に基づくサービス提供に努めました。さらにサービス提供責任者を増員し業務体制を強化することにより、ニーズへの迅速な対応とそれに応えられる体制の見直しを行い、研修内容の整備・充実に努めることで、サービスの質の向上に繋がりました。

事業活動においては、期初計画で年間11,000件を目標に取り組んだ結果、訪問実績件数は11,942件（目標達成率108.6% 前年度比101.3%）と目標を達成することができました。収入実績についても、介護の重度化による入院・入所・終了・ショートステイ利用の増加傾向の中、目標達成率104.8%と目標を達成することができました。

1) 介護予防訪問介護

サービス担当者会議に積極的に参加し、地域包括支援センターが作成したケアプランに基づき、その方の日常生活等のアセスメントを通して得た情報を適切に分析して、ご利用者の「できること（能力）」を如何に維持していくかを視野に入れた訪問介護計画書を作成しました。さらにご利用者の身体状況に合った細かい行為の目標を立て、小さな目標の達成を積み重ねることで、予防・改善の成果に繋がるよう努めました。またご利用者と共に行う自立支援の視点に立った適切なサービス提供に努めました。

2) 訪問介護

今年度も中重度利用者への対応能力の向上を重要視し、個別研修を実施するだけでなく、外部研修にも積極的に参加しました。ヘルパー会議の定期的な実施により、ヘルパーへの的確な情報伝達と介護技術の向上に努めました。ヘルパーからの要望により、「薬局しなやく」の協力のもと、薬に関する勉強会を実施しました。中重度利用者への対応においては、主治医・訪問看護の医療との連携を図り、さらにご利用者の身体状況の把握と変化の対応に努め、適切で安心なサービスを提供したことにより、介護・予防・自費・特別給付の中で介護給付の収入比率は79.7%と安定して推移しました。

また、認知症に関する知識と利用者に対するケアのノウハウ、特に効果的なコミュニケーション技術の向上、気持ちに添った介護の視点を深めるよう、事例検討を行ないました。

3) 有償サービス

有償サービスのさらなる展開・充実に関しては、ご利用者のニーズをもとに、楽しみ・満足につながる適切で安心なサービス提供を試み、若干ではありますが増加させることができました。

ケアホームとさくらハイツに関しても連携を図りながら、施設内有償サービスにも積極的に取り組みました。

(2) ご利用者の状況

1) 月別種別別利用比率

(単位：%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
予防給付	80.7	81.2	81.9	79.8	79.6	81.6	80.4	78.3	77.1	77.5	79.1	77.6	79.7
介護給付	13.2	14.0	12.6	14.7	15.2	13.5	14.7	16.5	16.4	17.2	15.2	15.6	14.8
自費	6.0	4.8	5.5	5.5	5.2	4.9	4.9	5.3	6.5	5.3	5.7	6.8	5.5

2) 月別訪問件数

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
25年度	1,021	1,005	920	1,027	974	1,002	1,076	1,016	972	830	940	1,006	11,789
26年度	1,097	1,070	1,018	1,076	1,022	1,088	1,091	926	937	836	832	949	11,942

3) 月別種別別売上金額

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護給付	2969	3168	3160	2899	2790	3219	3091	2594	2535	2192	2434	2507	33558
予防給付	486	546	488	534	534	532	565	546	538	486	468	503	6227
自費	222	189	212	200	181	194	188	175	215	151	174	219	2320

4) 月別売上合計金額

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比 (%)
23年度	3387	3611	3508	3220	3321	3203	3315	3107	3418	2856	3101	3458	39504	111.1
24年度	3264	3349	3073	3417	3266	3118	3296	3115	3082	3049	2861	3331	38221	97.0
25年度	3672	3643	3365	3726	3564	3616	3707	3834	3463	3010	3315	3557	42472	122.0
26年度	3678	3904	3860	3632	3504	3946	3844	3314	3288	2829	3076	3228	42105	99.5

(3) 会議

各種会議については情報共有を図り、連携を円滑に行うために積極的に参加しました。

ヘルパーステーション会議	毎月第4金曜日	安全衛生・生活向上委員会	第3水曜日
地区ケア会議	毎月第3火曜日	施設全体の運営会議	第4水曜日
サービス担当者会議	必要に応じて随時	スタッフミーティング	毎週木曜日

(4) 研修状況

【内部研修】

毎月1回(第4火曜)ミーティング・勉強会を行い、ニーズとサービス提供状況を確認し、ヘルパー全体で情報共有してサービスの適切と質の向上を図りました。

月	内 容	人 数
4月	◆事業計画について ◆職業倫理(人権の尊重、プライバシーの保護) ◆情報・意見交換	7名
5月	◆介護研修 介護記録の書き方 ◆高齢者の虐待について ◆情報・意見交換	7名
6月	◆介護研修 熱中症・食中毒について ステロイド外用剤について ◆情報・意見交換	3名
7月	◆介護研修 緊急対応について ◆情報・意見交換	7名
8月	◆介護研修 事故・ヒヤリハット事例検討 ◆情報・意見交換	5名
9月	◆介護研修 感染症について(インフルエンザ・ノロウイルス) ◆情報・意見交換	4名
10月	◆介護技術 腰痛予防について ◆情報・意見交換	3名
11月	◆介護研修 生活援助のヒヤリハット事例検討 ◆情報・意見交換	4名
12月	◆介護研修 認知症事例検討 ◆防災勉強会 ◆情報・意見交換	7名
1月	◆介護研修 虐待の事例検討、ヒヤリハット事例検討 ◆インフルエンザ予防対策 ◆情報・意見交換	13名
2月	◆介護研修 医療知識について「ヘルパーが知っておきたい薬の常識・非常識」 ◆情報・意見交換	9名
3月	◆今年度の振り返り ◆次年度事業計画 ◆情報・意見交換	8名

【内部勉強会】

月	内 容	人 数
5月	リスクマネジメント研修	2名
8月	防災委員会勉強会	2名
9月	衛生委員会勉強会「ピロリ菌について」	1名
11月	衛生委員会勉強会「この時期に起こりうる感染症とその予防策について」	1名
	リスクマネジメント研修	1名
2月	リスクマネジメント研修	1名

【外部研修】

月	内 容	主 催	人 数
7月	口腔機能向上ケア講座 嚥下障害の臨床最前線	品川福祉カレッジ	2名
9月	在宅医療スタッフのためのALSの基本的な知識	品川区	2名
3月	介護保険制度・報酬改定と地域資源を生かした ケアマネジメント	民間	2名

(5) 地域交流会

地域の方々との交流をより一層密にするためにも、例年実施されている地域祭りに参加しました。

月	内 容
5月	さくら祭り
7月	夏祭り